

いざー！ まちづくり構想へ

わたしたちの描く遠野のイメージはこれだ。

『住んでいる人が誇れる町、だれもがまた来たくなる町』

つまり、それってどんな町？

それはこんな感じの町です。

- ① 住んでいる人がいきいきと暮らす町
- ② 自然と共存し、それを誇りとする町
- ③ 訪れた人が、気持ちい々と感じる町



まちづくりに取り組む姿勢と意識

わたしたちは、
次のことを共通の理念として
まちづくりに取り組みます。



① まちづくりは、
地域が**自立**するためのものだ。

② まちづくりは、
わたしたちが**主体**で進めるものだ。

③ まちづくりは、
子どもたちに未来を残すわたしたちの
責任だ。

目標達成までの期間を 視野に入れましょう

全国各地で成功しているまちづくりの多くは、一定の期間の目安としておよそ十年をひとつの区切りとして設計されています。

成果は短期間にあらわれるものではなく、長期的な視野に立って考えることが大事です。

本構想は、平成二十一（二〇〇九）年度から三十（二〇一八）年度までの十年間を構想実現の期間として作成いたしました。

具体的な目標を定め、長期間で構想全体の実現につながるような設定にしています。

また、社会経済情勢の変化や、具体的な取り組みの進み具合に合わせて、こまめに見直し確認作業をすることが求められます。

イメージの実現と課題克服のために

わたしたちは、大きな柱を三つ立てて、具体的な取り組みをしていこうと提案します。

● 構想実現目標 平成三十(二〇一八)年度

● 生きがい ●
産業・経済／社会基盤

生活の糧を得るために大事な「仕事」と「生活するための基盤」。

やりがいがあり、家族を充分養っていける安定した仕事が生活の基盤としてもっとも重要なものです。経済活動が充実してこそ、住んでいる人がいきいきと暮らす町ができあがるのではないのでしょうか。

そして、近隣地域とスムーズに交流できる交通環境や、心よりどころとなる公共施設などの整備ができてこそ安心して仕事に励むことができます。

● きもちのいい暮らし ●
自然・環境

都会にはない、豊かな自然と共存した、のびのびとした環境は、幸せな暮らしになくてはならないものです。

訪れる人たちが、ほっとするよくなあたたかい雰囲気づくりで、わたしたちの心も和みます。ここで暮らすのがいちばんと思えるような、魅力ある町を目指します。

● 健康な心と体 ●
福祉・教育・文化

生きる喜びがあり、子どもがのびのび育つ町。子どもやお年寄りが安心して暮らせる生活環境。

そして、わたしたちみんなの老後が幸せな町になることです。

具体的に取り組みましよう！

では、具体的に何から手をつければよいのでしょうか？

あるいは、そのためのアイデアにはどんなものがあるのでしょうか？

以下は、みなさんから寄せられた意見をもとにまとめた、具体的な取り組み案です。

（地域だけでは手に負えない部分をどの程度行政などに協力をお願いするかについては、22・27ページに表にしております。）

1

〈生きがい〉 のあるまちづくり

産業・経済／社会基盤の充実

●農業の活性化

コンセプト

・安全、うまい、体にいいもの

1. 特産品をつくる

・有機野菜

2. 特産品を地元で加工して売る

・特産品の発掘

・共同加工場の整備

・米粉パン開発

・手づくり豆腐

・手づくり玉こんにゃく

・つるびきうどん

・ゆず、ブルーベリーなど健康食品の加工

（シヤム、マーマレード、コンフィチュール、

ゆず茶、ゆず湯、干し柿加工品、そのほか）

・山菜

・米（遠野米、遠野もち）、小麦、そば、豆類など

・ゆず、柿、ブルーベリーなど

・炭

・梅、セリ、自然薯

●地元商店街の活性化

コンセプト

・人が集まるにぎやかな商店街を再生する

1. 商店街のインフラ（基盤）整備

・大型駐車場の整備——バイパス沿いで広く

らく買い物。大型イベントの開催。

・地域バスなどによる利便性で集客（駐車場

から商店街までのピストン運行も）

・人が自然に集まり交流する憩いの場所がある商店街づくり

・市を立てる（朝市、盆市など）

2. お客さまを呼ぶ

・地元の人が地元で買い物したくなるような

3. 特産品の販売ルートを拡大する

・PR（広報）活動を積極的に行う

・HP（ホームページ）を作って情報提供

・HPを利用した通信販売

・産地直売所を整備、活性化させる

・ほかの地域にアンテナショップを設置する

・「地産パックスセット」、「ふるさと便」の販売

・地元食材を使ったレストラン、料理教室

・地域商店街の利用

・「いわき遠野」ラベルの発案

工夫

・地域外からのお客さま開拓↓特産品が生き
る！

・市民運動場の特性(いわきでトップクラス
の水はけのよさ)を整備、活用、PRして、
地域外からの利用者を増やす↓商店街の利
用者拡大につなげる

3.新しいコンセプト事業開発

・遠野らしさが売りの「ほろすけ通り」企画
・スタンプラリー企画
・アウトレットショップ企画

●伝統工芸の復活・継承と、新規工芸品の開発をする

コンセプト

・手づくり、希少価値、自然素材、ぬくもり

1. 伝統工芸品づくりをもりあげよう

・手漉き和紙
・竹細工
・桶細工
・鍛冶製品
・わら細工
2. 新規工芸品を発見、推進、アピールしよう
・尺八づくし

・インテリア行灯

・ガラス工芸

・創作木工

3. 販路を拡大しよう

・農産特産品の販路の拡大にも通じるので協
働する。

・体験即売会↓観光産業と連携していく

・各世帯の一品買い上げ運動

4. 伝統技を大切に保存して、次世代へ継承しよう

・地元「名人」の発掘
・地元小中高生の体験学習
・後継者候補対象の技能講座
・技能保持者の生活の優遇措置をする

●資源を活かす新産業

コンセプト

・自然、ほかにない魅力、人を活かす

1. ほかの地域との交流人口を増やそう

・遠野オートキャンプ場の利用拡大のための
イベント開発↓アイデアを広く募集してみ
る
(ソープボックスダービーなど、大人も子ど
もも楽しめる新しいスポーツで新しい顧客
を呼びこ)

・行灯まつり開催↓商店街の活性化にもつな
がるように

・手作り工房体験、即売ツアーなどの実施

・ゲンシポタルの里を整備する

・地の利を生かして、教育旅行の受け入れを
する

2. 自然を利用した独自の商品を開発しよう

・倒木や流木を活用する方法を研究する
・水生生物(カジカ、ドジョウ、沢ガニ、タニシ
など)の活用法を研究する
・信号機オーナー制(柿Ⅱ赤、梅Ⅱ青、ゆずⅡ
黄色)を導入して、ほかの地域の人に農業参
加してもらう

●生活しやすい社会基盤がしっかりしている

コンセプト

・みんなの日常生活がとっても便利

1. 心よりごころとなる施設をつくろう

・遠野手づくり図書館↓各家庭にある本を持
ち寄って、貸し出し、知識を共有する
・さまざまな機能をもった公共施設、設備を
要望、実現する

2. 道路、交通環境の整備をしよう

2

〈きもちのいい暮らし〉 ができるまちづくり

自然と環境が誇りの町

●自然を大切に作る町

コンセプト

●豊かな心は豊かな自然の中で育つ

1. 不法投棄、ごみが散乱する場所をなくそう
 - ・ みんなの意識改革のための教育活動をする
 - ・ 地域外から持ち込まれるごみの不法投棄防止のパートナーを強化する
 - ・ 啓発看板を増設する
 - ・ 環境美化の日を創設(チラシ配布、ごみ拾い、

- ・ 農免道路の早期開通への要望活動
- ・ 県道などの整備を促進する
- ・ 地域周遊バスがみんなの足になる
- ・ 商店街通りの交通システムをよくする(安全・便利に)

草刈など)

- ・ ボランティア清掃活動(その普及、広報)でいつもきれいな町にする

2. 遠野版エコ運動を掲げよう

- ・ 脱石油運動(薪炭の使用、エコバッグ利用など)

- ・ エコの日を創設(自転車の日、行灯の日など)

- ・ 家畜の糞や野菜残渣のリサイクル推進

- ・ ごみ分別の徹底

- ・ ほかに先駆けて電気自動車や低燃費自動車を走らせる↓地元ガソリンスタンドなどと協働する

3. 里山でいきいき生きる

- ・ 遊休地、荒地などへの植栽活動

- ・ 里山生活学校の開催(炭焼き体験、薪収穫、間伐体験など)

- ・ 里山の美しい原風景の保全活動(市内企業などとの連携による)

●天水循環を守る町

コンセプト

●日本で消えつつある清流が残る町

1. 水源を守れ

- ・ 水際イベント開催(水生生物観察会、水質同時調査など)で、意識を高める

- ・ 鮫川流域ネットワークへの参加

- ・ 間伐を促進して森を守り、水を守る

- ・ 広葉樹植栽で水源涵養を高める

- ・ 漁業と連携した「漁民の森」をつくる

2. 河川関連設備の整備をしよう

- ・ 河川敷公園の整備(↓具体的内容要検討。公園の活用方法募集)

- ・ ダム周辺の散策路新設(入川溪谷、鮫川溪谷)

- ・ 四時川との連携化構想づくり

- ・ 天然遡上アユ復元↓高柴ダム魚道づくり

- ・ わたしたちは川を汚したくありません

3. わたしたちは川を汚したくありません

- ・ 川に直接流される生活排水を考える

- ・ 台所、浴室洗剤の利用方法を考える

- ・ 定期的に水質調査をして住民に知らせる

- ・ 農業集落排水事業への参加運動

- ・ 合併浄化槽の有効性や補助制度のPR活動

●自然と親しむ町

コンセプト

●身近な自然に愛情を感じる町

1. 家族で憩える遠野自然公園を低コストでつ

- くろう

- ・ 家庭の不要な花木寄付運動

- ・一株オーナーを募集する
- ・一般募集による植栽事業
- ・森林を借りて、手づくりの公園をつくる(まると花山公園)
- 2. 「ザ・龍神峡」作戦
 - ・守る会組織をもっと大きくしたい
 - ・定期的な草刈、伐採、植栽などを実施して環境を整える
 - ・希少植物、絶滅危惧種の調査、保護をしていく
 - ・地域観光資源として捉えられる。↓不法投棄はぜったいなくす
- 3. 花いっぱい運動を広げよう
 - ・家庭からの花持ち寄り一斉植え付け運動。子ども参加型
 - ・ミツマタなどの植栽法の学習会
 - ・遠野の花を選定する
 - ・「とおのののはな(遠野の野の花)」展覧会開催(写真展なども)

●里山を体で感じる町

コンセプト

- ・自然は見るだけでなく体全体で感じるもの

1. 五感で感じる里山教室を開こう
 - ・里山を味わう会(こんにゃく、みそ、杵もちなど)
 - ・野良仕事も里山ならではの(田植え、野菜収穫、しいたけ作りなど)
 - ・父と子の「背戸山」教室(セミ、ホタル、カエル、クワガタなど)
2. 自然の中で健康づくり
 - ・滝富士、八潮見城のハイキングコース連携、鉱山跡の見学
 - ・里山サイクリングコース選定、ツーリング会開催
 - ・健康づくりと河川環境を知ってもらう(一石二鳥のリバースポーツ普及活動)
 - ・緑に包まれた屋外フィットネスの開催(キャンプ場ほか)

3

〈健康な心と体〉 をはぐくむまちづくり

福祉・教育・文化の充実

●住みよい町

コンセプト

- ・生活環境条件を整えば、ずっと住んでいたい町になる

1. 住民の生活環境を充実させよう
 - ・インターネット環境改善
 - ・役所の時間外窓口開設の要望
 - ・学校図書館の開放の要望
 - ・生活水利用状況の調査と対応
2. 若者の定住と交流の活性化をはかろう
 - ・男女が出会える「交流広場イベント」開催
 - ・青年会、子ども会などの活性化で地域住民の親交を深める
 - ・雇用促進につながる活動の調査と開拓
3. U・J・ターン者を積極的に受け入れよう
 - ・空き家調査、手引書作成、体験ツアーや移住者の集いの開催など支援に力を入れる

●安心、安全な生活が送れる町

コンセプト

- ・安全な暮らしには、心にゆとりが生まれる
- 1. 犯罪のない町にしよう

- ・振り込め詐欺、悪徳商法などの啓発チラシを配布する
- ・防犯巡回を継続し、青色防犯灯や防犯あいさつ運動の先進例の調査をする
- ・わんわん防犯隊結成(犬の散歩者連絡網)
- 2. そなえが大事、防災環境
 - ・防災マップ作成(断層、洪水、崩落、などの危険地域や避難所がひと目でわかる)
 - ・自主防災組織の訓練、消防団、自警団など関連団体の連携強化
- 3. 交通事故ゼロ、安全の里づくり
 - ・交通安全マップ作成(子どもやお年寄りの視点調査で危険箇所マーク)
 - ・無事故記録の地区對抗戦実施
 - ・町なか大型車通行規制検討(時間帯、路線など)
- 4. 基本は体、みんなで健康づくり
 - ・健康体操のサロン活動充実
 - ・地域ぐるみラジオ体操(ほかの体操でも)の普及
 - ・食育の大切さを学ぶ会(講演会の開催、普及チラシづくりなど)

●人と人がつながる町

コンセプト

・笑顔がすてきな人と人

1. 安心して共稼ぎができる町にしよう
2. わたしたちは支え合って生きていきます
 - ・共稼ぎ応援のための仕事需要調査(子育て支援、家庭仕事支援、まちづくり支援)
 - ・団塊世代や保護者によるボランティア団体の立ち上げ
 - ・サポーター登録制度
 - ・地域マナー制度の整備
3. いろいろな「わづくり」話・和・輪・環づくり
 - ・お年寄りと子どものイベント開催(昔遊びなど)
 - ・言葉によるふれあい会開催(遠野弁語り部、大ぼら大会など)
 - ・みんな大好き井戸端会議セットづくり(道端にベンチ・テーブル配置)
 - ・地域外からの訪問者や、遠野出身者による応援組織「遠野ファンクラブ」結成

●人が育ち、文化が育つ町

コンセプト

・地域に誇りを

1. 次世代のリーダーを育てよう
 - ・一人一活動運動の推進
 - ・児童生徒主体イベント開催と参加、イベントの連携、統一化をはかる
 - ・遠野高校の中高一貫や専門科創設構想を描く↓入学者促進につなげる
2. 文化、芸能の保存と伝承
 - ・愛好会奨励や保存団体の立ち上げ(じゃんから継承、その映像化など)
 - ・遠野町を知るための資料編纂↓遠野を知ることで愛情が生まれる(歳時記マップ、地域歴史読本、遠野名所カレンダーづくりなど)
3. 地域情報の受発信と広報活動をすすめるよう
 - ・地区記者による「広告付きの地区誌」発行
 - ・標語やロゴマークの募集。
 - ・みんなに読まれる回覧板・チラシづくり

構想を現実に

絵に描いた餅にならないように

誰が、何を、どう始めたらいいのか？

いったいどこから手をつけたらいいのでしょうか？



まずは手分け

たくさんある取り組みも、分類し、みんな
で手分けしていけば第一歩は踏み出
せます。



分類する

たくさんあげた取り組みの具体案を分
類し、それぞれに中心になって活動する
グループを設けることで、足並みが乱れ
ることや混乱を防ぎます。

地域のみんなで

まずその取り組みに興味のある団体や個人が率先してやる。
あるいはその取り組みに関係のある団体や個人がやる。
さらに新たに取り組む団体をつくってやる。
そしてまちづくりの推進母体である、振興協議会や区長会などが直接行う。

サポートも必要

取り組みの規模によっては、どうしても地域住民の手には負えない問題がでてきます。そんなときには、行政や企業の支援を求めます。
場合によっては、学校など公共機関にも協力を依頼します。



以下のページに、
行動計画および役割分担を表にしてあります。

